

東京見聞で洞爺湖町を再発見 温泉中3年生修学旅行の体験を発表

10月30日、洞爺湖温泉中学校の3年生が、町議会の議場で、真屋町長を前に総合学習での研究成果を発表しました。

3年生12人は、今年4月の東京への修学旅行で、洞爺湖町の観光に活かせる題材を視野に入れて、現地での体験をしてきました。それを総合学習の時間にまとめあげ、「洞爺湖の観光に求められるもの」として発表。「見やすい掲示板」「障害者への配慮」など具体的に提案しました。

真屋町長は「東京にはない、いなかのよさを情報発信していきたい。そのためには環境を皆さんといっしょに守っていききたい」と生徒たちの提案に応えました。



洞爺湖観光へ提言する温泉中の生徒たち

■噴火被災地の民間交流第12回火山市民ネットワークが、



被災地の現状を語り合う参加者

11月9日から11日の3日間町内で開かれました。

参加したのは、NPO法人洞爺にぎわいネットワーク（洞爺湖町）、NPO法人島原普賢会（長崎県島原市）、ネットワーク三宅島（東京都三宅村）、都城新燃岳被災者の会（宮崎県都城市）の4団体。

一行は、西山、金毘羅両火口や洞爺湖ビジターセンター・火山科学館などを視察し、当町の復興状況を確認。

その後行われた懇談会では、①火山遺構の施設と地域振興との結びつき②噴火災害の次世代への伝承などを語り合いました。

災害復興から地域振興を語り合う 第12回火山市民ネットワーク

洞爺高校ととうや小学校との交流授業が、11月11日、12日の両日洞爺高校



高校生の指導でエプロンを作りあげる児童たち

で行われ、被服コース3年生10人が先生役となり、同小6年生16人を指導。ミシンを使ってエプロンを作り上げました。

児童らは、ミシンのかけ方などに苦労しながらも、高校生の励ましや的確な指示を受け、2日間で全員が好みのエプロンを完成させました。

これに先立ち5日、6日の両日にも同小5年生と洞爺高2年生が、ナップ・ザップ作りに挑戦しました。

エプロン作りで交流 洞爺高校ととうや小学校

会場に響く歌声 第20回洞爺湖子ども芸術文化フェスティバル

町内の小、中学校が一堂に会し、楽器演奏や合唱を披露する第20回洞爺湖芸術文化フェスティバル（同実行委員会主催）が、11月15日洞爺湖文化センターで開催されました。

参加したのは、虻田小学校、洞爺湖温泉小学校、とうや小学校、虻田中学校、洞爺湖温泉中学校、洞爺中学校の6校で、洞爺高校は、作品展示で参加しました。

同フェスティバルは、虻田小学校5年生の器楽と合唱でスタート。2部構成で行われプログラムの最後は、中学生による合同合唱で、「大切なもの」「マイバラード」の2曲を力強く歌いあげました。



元気の歌声を響かせた子ども芸術文化フェスティバル

まちのわだい